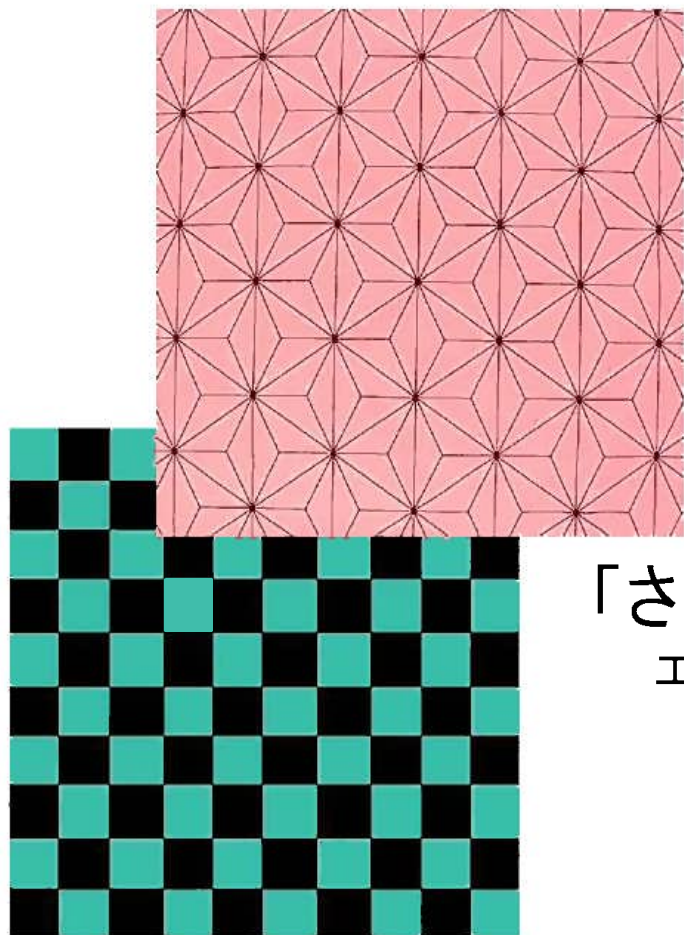
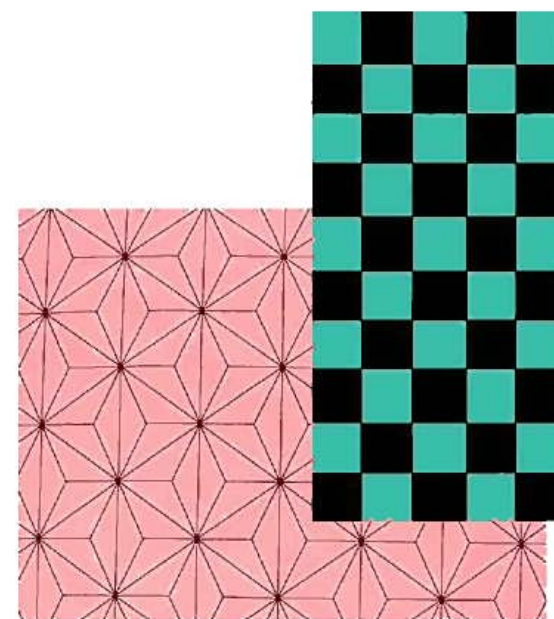


MAFF



「さとうきび」を栽培するプロジェクト

エレファント・フィード・プロジェクト(E・F・P)



令和 3年11月

九州農政局 大分県拠点

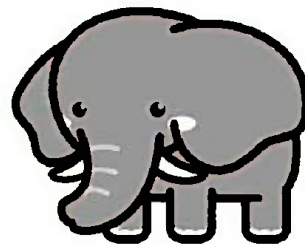
【トピック】

大分県(別府市・杵築市)の耕作放棄地等において、若手の担い手農業者の集まりである、別府・日出さとうきび研究会(以下「研究会」という。)による、アフリカ・ライオン・サファリ株式会社(以下「アフリカンサファリ」という。)が飼育するアジアゾウへ給餌する「さとうきび」の本格的な栽培に向け令和2年度より試験栽培を実施し、R3年度より、**休耕田である棚田(別府市内竈棚田)**を含めて本格栽培を実施する。

【農政局が関与する理由】

農林水産省地方参事官室は、平成27年に設置され、「農業の現場を農政につなげる」を主な業務として3年が経過したところであるが、昨年より「農政の現場と共に解決する」業務を追加拡充したところ。

本件は、その趣旨に沿って、農政局としては事業者等との意見交換の中で、耕作放棄地の解消、農業者所得の向上となる取り組みであり、「現場と共に解決する」事項であると判断し、両者のマッチングを行うとともに、生産にかかる情報収集から事務的なサポート等を行っており、今後も栽培にかかる情報提供(生産者の勉強会等)をサポートしていきたい。



大分県内での「さとうきび」の栽培するプロジェクトについて エレファント・フィード・プロジェクト(E・F・P)

大分県 別府・日出地区において、アフリカンサファリが飼育するアジアゾウ(5頭)へ給餌する「さとうきび」を大分農業青年連絡協議会(以下「4Hクラブ」という。)の会員で構成する研究会が令和2年度から試験栽培を実施し、令和3年度以降の苗の確保と本格栽培を目指す。

これにより、アフリカンサファリの方針である地元への貢献と、生産者は、耕作放棄地の解消、所得の向上へつながる取組となる。令和3年以降本格的な作付けが実施され、生産が拡大する場合には、将来、九州から各地方の動物園へ「さとうきび」の供給基地を目指す。

【さとうきびの試験栽培の背景】

アフリカンサファリとの意見交換の際に、アジアゾウの嗜好性が高い「さとうきび」が、現状では、南西諸島から製糖用のものを冷蔵での運送を行うことから、高価となり、なかなか給餌出来ない。アジアゾウの体調管理、ストレス解消等へ効果的な「さとうきび」を安定的に安価で給餌させたい。との意向

4Hクラブとの会議において、近隣の耕作放棄地への作付けの依頼をされるが、労働力が手一杯であるとともに、新規の販路確保・拡大が困難であるためなかなか応じられない、しかしながら、田畑が荒れて行くのはさびしい。

このようなことから、九州農政局大分県拠点(以下「県拠点」という。)において、アフリカンサファリと4Hクラブとのマッチングを令和元年7月から行い、研究会とこれまでに数回、打ち合わせを行い、令和1年12月試験栽培に関する基本的な合意に至った。

当初20aでの試験栽培の予定であったが、「さとうきび」の苗が自家増殖によるものが一般的であったことから、種苗の市場への流通が少なく入手が困難であり、県拠点が手をつくし、確保できた約4.6a分の種苗により、令和2年2月に試験栽培の契約を行い令和3年以降の苗の確保と本格栽培を目指すこととなった。

【試験栽培の主な合意事項】

- 試験栽培に係る費用(苗・肥料等)については、アフリカンサファリが負担する。
- 収穫時に生産者へのその対価を支払う ○ さとうきびの栽培に関して、その糖度は求めない。
- 令和2年2月に「さとうきび」の栽培技術取得のため、勉強会を実施
- 栽培技術の確立のため、アフリカンサファリと研究会及び県拠点により、適宜栽培状況の確認と検討会・研修会を実施する。

エレファント・フィード・プロジェクト(E・F・P)



【関係者 Player】

○ 生産者 別府・日出さとうきび研究会

生産者 恒松敬章(大分4Hクラブ会長:別府市火売8組3-B ●●●●●●●●●● TEL●●●●●●●●●●)

岩尾親一(関口観光農園:速見郡日出町大字藤原●●●●●●●●●● TEL●●●●●●●●●●)

○ 需要者 アフリカ・ライオン・サファリ株式会社 神田岳委取締役園長 (総合企画・広報担当取締役:当時)

大分県宇佐市安心院町南畑2-1755-1 TEL0978-48-2331

○ 九州農政局 大分県拠点(担当) 総括農政推進官 中川 宏:主任農政推進官 河野 淳

【作付圃場・面積・栽培品種】

第一圃場: (恒松) 別府市内竈金丸●●●●●●●●●● 2. 3a KRf093-1 黒海道 農林8号

第二圃場: (岩尾) 杵築市大字相原字丸石●●●●●●●●●● 2. 3a KRf093-1 黒海道 農林8号

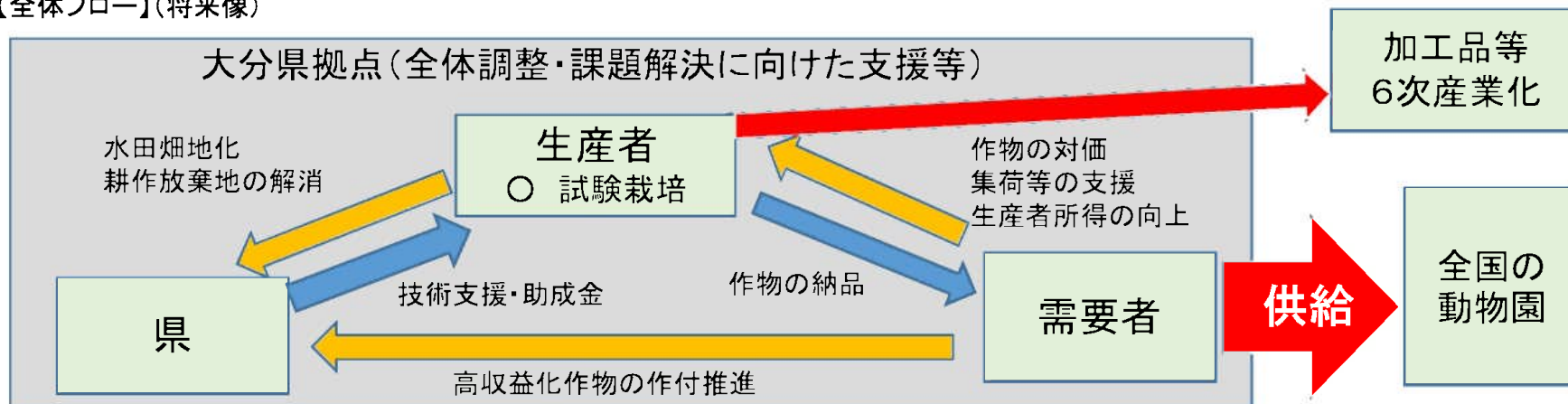
【将来的には】

さとうきびは10aあたり3~4トンの収穫が見込まれ、またアジアゾウは1年間1頭あたり36トン給餌されており、そのうちの1/3をさとうきびにした場合、1頭あたり約12トン、5頭で60トンの年間使用が見込まれる。

このため、10aあたりの収量を3トンとした場合2haの作付けが必要となり、県を交えて高収益作物としての転作作物としての加算措置等を要請するなどの広がり期待する。収穫が安定した場合、大分から九州そして全国の動物園のアジアゾウへの「さとうきび」を供給する基地、及びさとうきびを活用した加工品の製造も視野に入れている。

県拠点は、その全体を把握し、それぞれへの働きかけと調整等を行う

【全体フロー】(将来像)



(試験栽培・本格栽培タイムテーブル)

		ASF	別府・日出さとうきび協	MAFF
令和元年度	8月	第1回マッチング会議(協議会設置準備会議)		
	9月			栽培・種苗情報の確認 (農研機構)
	10月	第2回マッチング会議(協議会設置準備会議)		
	11月			
	12月	協議会設置(令和2年度での栽培に関する確認)		
	1月	条件等確認・試験栽培契約		
	2月		現地検討会(福岡県 朝倉生産者)	
	3月	種苗の確保(農研機構)		
令和2年度	4月	試験圃場 定植		
	5月	栽培状況検討(定植状況等報告)		
	6月			
	7月			
	8月	協議会開催(令和3年度の取組確認)		
	9月			
	10月			
	11月		種苗の確保	
	12月	試験圃場 収穫	条件等確認・R3年度栽培契約	
	1月		搬入 保管 苗確保	
	2月	協議会開催(令和3年度の圃場等の確認・検証等)		
	3月	圃場 定植		

□ E・F・Pこれまでの経緯

2019.5.21 アフリカンサファリ意見交換

さとうきび栽培意向確認

2019.5.30 4Hクラブ総会

耕作放棄地の活用相談

2019.6.13 E・F・Pチーム立ち上げ

さとうきび栽培の可能性確認等

2019.6.25 4Hクラブ意見交換

さとうきび栽培意向確認

2019.8.29 アフリカンサファリ・4Hクラブ ペアリング

双方によるさとうきび栽培合意

2019.9.19 E・F・Pチーム情報収集

九州沖縄農研センターへの技術協力依頼。情報収集等

2019.10.7 アフリカンサファリ・4Hクラブ意見交換

栽培契約に関する打ち合わせ、栽培手法等の情報提供

2019.12.10 アフリカンサファリ・さとうきび研 意見交換

栽培圃場の確認、栽培契約の見直、関係自治体への情報提供等

2019.12.17 E・F・Pチーム打ち合わせ

種苗の確保に係る各種情報収集・確認

2020.1.17 さとうきび研 意見交換

栽培契約に関する見直、種苗確保関係事務打ち合わせ

2020.1.20 E・F・Pチーム打ち合わせ

九州沖縄農研種苗に係る事務処理等

2020.1.29 農政懇話会

試験栽培に関する情報提供



□ E・F・Pこれまでの経緯

2020.2.5 アフリカンサファリ・さとうきび研 調印式

契約書調印 囲み取材

2020.2.17 E・F・P栽培技術研修

福岡県朝倉市の生産者圃場等において技術研修

2020.3.3～4 アフリカンサファリ 堆肥施肥

2020.3.24・26 さとうきび苗 調苗作業

2020.3.25・27 植え付け



2020.5.20 生育状況確認

2020.6.16 生育状況確認

2020.7.2 生育状況確認

2020.8.26 生育状況確認

2020.8.29 大分放送 取材



2020.9.4 さとうきび栽培実地検討会

2020.10.6 生育状況調査

2020.10.16 さとうきび初出荷

2020.12 予定作付分の全量出荷



2021.1.26 R3年度栽培契約の締結

進 捗 状 況

■ 技術研修会

令和2年2月17日(月)

福岡県朝倉普及指導センター及び隣接する川藤氏さとうきび圃場

取り組みに係る合意に基づき、九州沖縄農業研究センターから紹介された、筑前町農産加工所さとうきび部会川藤事務局長(朝倉市とその周辺でさとうきびを栽培する生産者のリーダー的存在)による圃場及び座学での技術研修会を開催

参加者 別府・日出さとうきび研究会 恒松代表、岩尾構成員、関口農園従業員2名
九州農政局大分県拠点、福岡県拠点



圃場での植え付けの指導



ポット苗の説明



生産者
(左から 関口観光農園従業員、岩尾氏、川藤事務局長、恒松氏、岩尾氏の父)



川藤事務局長の説明

進 捗 状 況

■ さとうきび苗植え付け

令和2年3月25日

第一圃場において恒松代表と、岩尾さん二名で1回目のさとうきびの植え付けを実施。
前日調苗したものを、畝にそって等間隔に植え付けを行った。

畝の間に、二節に調整した苗を芽を上側にして、こぶしひとつ程度空けて並べてゆき。覆土を行い。マルチで覆い低温から苗を守るなど実施。



翌日に、杵築の第二圃場でも、同様の植え付けを実施。

進 捗 状 況

■ さとうきび生育状況 1

令和2年5月20日 コロナ禍による緊急事態宣言が解除されたことから、大分県拠点で圃場の生育状況確認を独自に実施した。

生育は、現在のところ各品種ともに良好で、今後、梅雨の時期に入り、気温の上昇と豊富な水により生育は一気に早まるものと予想される。



別府(第一圃場)

第一圃場

本土用品種である黒海道、飼料用品種がやや生育が農林8号より早く、約50cmの丈で生育している。葉までの長さだと80cmと順調な状況



杵築(第二圃場)

第二圃場

本土用品種である黒海道、飼料用品種がやや生育が農林8号より早く、約30cmの丈で生育している。葉までの長さだと50cmと順調な状況

別府より高度が高いため低温であることなどから若干小さめである。そのため検証時点ではマルチを継続していた。

進 捗 状 況

■ さとうきび生育状況 4

令和2年 8月 26日 大分県拠点で圃場の4回目の生育状況確認を独自に実施した。

生育は、8月は晴天が続き、また気温も高く7月の長雨による土中の水分もあったことから順調な成長がみられた。



別府(第一圃場)

第一圃場

生育は順調、前回から1月を経過し特に飼料用品種は成長が早く、茎丈180cm程度となっている、ついで農林8号の順で順調な状況、黒海道は土壌の水はけが悪かったため他品種より生育が遅れている。

葉までの長さでは、約300cm程度まで成長している。



杵築(第二圃場)

第二圃場

第一圃場同様に飼料用品種の成長が早い、茎丈は180cm程度、葉までの長さは約300cm以上と順調、黒海道、農林8号も同様

西側の暴風林の関係で日照不良による農林8号の生育がやや遅延が見られるが、病気等の発生もなく安定している。

進 捗 状 況

■ さとうきび栽培実地検討会 5

令和2年 9月 4日 別府第一圃場及びアフリカンサファリにおいて実地検討会を実施



第一圃場にて、生産者から、生育状況の説明を受け、試験収穫(約20本:農林8号)を実施、第二圃場10本とあわせて計30本(約20Kg)



アフリカンサファリにおいて、収穫したさとうきび約20kgを給餌、その後、園長、生産者の共同会見を実施
(マスコミ TV4社 新聞4社)



アフリカンサファリ会議室において、検討会を実施し、以下について検討を行った。

- これまでの成果報告
- 収量予想、納品の時期、手法
- 来年度の試験栽培に係る方針、考え方等の確認
- 来年度の面積拡大の規模等
- その他

進 捗 状 況

■さとうきび生育状況(杵築) 6

令和2年10月6日

台風の強風による倒伏はややみられるが、持ち直しており成長への大きな影響はでていない。



進 捗 状 況

■ さとうきび生育状況(初出荷) 7

令和2年10月16日 杵築(第二圃場)において積載量を確認と品種ごとの収量確認のための初出荷を実施。

生育は、9月の試験収穫後も順調に成長し、茎丈は2mを超え、葉までは3mほどとなっている。



今回、サファリが集荷用に使用する2トントラックを使用し、積載可能な状態まで収穫を行った。併せて1㎡あたりの品種ごとに収穫し軽量を行った。

サファリにて軽量を行ったところ、1車あたりの重量は約400kgであった。収量の計算では、およそ10aあたり4トン程度と推計される。

南西諸島での収量は5～7トン程度とされていたが、その収量は茎のみの収量であり、サファリでは葉もゾウの餌になることから当初の予想収量から増となっている。

サファリでは、さとうきびが水分が多いことから、1回の給餌量について検証を行いながら状況を確認する予定

R3年8月12日:令和3年度初収穫(日出町大字藤原8118-1)

令和3年度さとうきび初収穫が日出町の圃場で行われた。今回の収穫は生育状況の確認と併せて試験的に行われたもので、収穫したさとうきび(30kg程度)はアフリカンサファリでアジアゾウに与えた。

当日は生憎の悪天候にもかかわらずマスコミの取材もあり、降りしきる雨を物ともせず、ゾウ達は奪い合うようにして食べていた。



R3年10月1日：日出町大字藤原8118-1の生育状況

